

【優秀賞】

これからの多様性について

丸亀市立西中学校 二年 阪本彩乃

小学校や中学校の授業で、人権について、今まで色々な勉強をしてきました。小学校の道徳の授業では、仲間はずれで無視されたり、いじめられたら、つらくて悲しい気持ちになるので、自分がされていやなことは、相手にもしないという基本的なことを学びました。自分のことばかりを考えるのではなく、相手を思いやる気持ちが大したことでも教わりました。こういったいじめなどで、相手の心を傷つけ、つらい気持ちにさせることも、その人の人権を傷つけることになりません。

そもそも人権とは、どういう意味なのだろうかと思い、調べてみました。「人権とは、すべての人間が、人間の尊厳に基づいて持っている固有の権利である。社会を構成するすべての人々が個人としての生存と自由を確保し、社会において幸福な生活を営むために、欠かすことのできない権利である。」と記載されていました。簡単に言うと、人が人として社会の中で、自由に考え、自由に行動し、幸福に暮らせる権利のことです。

そこで、現代の人権問題として、テレビなどでよく聞くのは、「多様性」についてだと思います。集団のなかで、年齢、性別、人種、経験、趣味や好きなものが異なる人が存在している状態において、その個性が認められる考え方のことを言います。世界中には、たくさんの国があります。さまざまな社会や民族の習慣があるため、それぞれの国でちがう考え方があって当然のことだと思います。日本でも、この多様性を尊重しようとする動きが活発化しています。お互いに個人の違いを認め合うということが必要だと思いますが、自分でも出来ている

のかどうかがよく分かりません。無意識に判断してしまっている場合があるのではないかと思いました。

例えば、テレビで、こんな質問をしていました。「今から三つのイラストと文字で書いたセリフを見てください。そのセリフの声は、男性の声に聞こえますか、それとも女性の声に聞こえましたか。」まず一つ目は、高層ビルのイラストに会社の社長のセリフです。「今から我が社の経営方針を発表します。」二つ目は、おもちゃ売り場のイラストで、子供のセリフです。「このピンクのくまのぬいぐるみがほしい。」三つ目は、家で赤ちゃんが泣いているイラストです。セリフは、「はいはい。今、いくね。よしよし。よしよし。」というものでした。私の頭の中で出てきた声は、一つ目は男性の声、二つ目は女の子の声、三つ目は女性の声でした。でも、考えてみると、一つ目は、実は女性の社長かもしれないのに、なぜか頭の中に浮かんだのは、おじさんの声でした。二つ目は、ピンク色と言った時点で女の子の声が浮かんできました。三つ目は、赤ちゃんが泣いているので、心配して見に行くのはママだろうと思いついてしまいました。

今回の質問を通して、無意識に男性のイメージ、女性のイメージというものを持ってしまっている自分に気が付きました。女の子は、ピンク色や花柄、ハートマークが好きだろうという考え、また男の子は青色や星柄が好きという考え、これらは、子供の時に見た絵本やテレビ等が大きく影響しているのではないかと思いました。男の子とは、女の子とはこうであるものという考えが押しつけられていたのだと思います。偏見を持たずに見ていけないと思います。

具体的には、人と話すのが苦手だったり、早く走るのが得意じゃなかったり、体型のことだったり、内面的なことだったり、人は皆同じではないのです。それが、その人らしい個性なのに認めることができず、自分とは違うということだけで否定してしまっている人達がいま

す。異なっていてあたり前なのに批判してしまっています。これが、小学生の頃だと、仲間はずれやいじめのきつかけになってしまったのだと思います。多様性のことを調べていく内に、大事なものは認めるということが分かりました。

このように多様性という言葉が世界にも広がり始めています。活動している人の講演会で、次のように話をしていました。

「自分には理解できないけど、そんな考えの人がいてもいいねと認め合うのが多様性。つまり、私はこう思っているのだから、あなたも分かっていると自分の考えを押しつけるのではなく、あなたはそう思っているのねと相手の意見を受け入れる姿勢が大事です。」お互いに認め合い、尊重し合って、住みやすい環境を作っていかなければいけないと思いました。

最後に、今のクラスの学級旗のテーマは、「パズル」です。形はひとつひとつ違うけれど、ひとつ欠けてもいけない大事なピースです。全員そろわないと完成しない、大切な仲間です。みんな一人一人が大事ということを日頃から忘れないようにして、大人になっても、お互いが認め合えるような、自分らしく、その人らしく生きていけるような世界にしていきたいです。